

令和5年度学校評価

本年度の重点目標	生徒の成長を第一に考える学校づくりを推進する。 ―生徒が良い表情で登下校する学校を目指す― ―厳しいなかにも愛情のこもった指導を粘り強くおこなう―		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	P T A行事の活性化	役員会・委員会で、慎重に企画、検討を行う。各種研修会、講演会への参加者を増やす。案内が保護者の手元に確実に届くようにする。	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したが、それ以前に行ってきた活動を知る人材が少なくなったことで、各行事を手探りの中で再開することになった。相互のコミュニケーションが引き続いての課題である。
	学校行事の円滑な運営	行事開催に向けて、早い段階から分掌、学年への調整をはかる。生徒に自分達の行事・式典であることを自覚させる。	新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、徐々に行事を復活することができたが、さらに工夫と努力が必要である。
教務部	カリキュラム・マネジメントの促進	各教科、分掌、学年でPDCA サイクルを回し、学校改善をすすめる中で、今後の学校のあるべき姿を考える。	適宜生徒の実状を把握できるよう研修やアンケートを実施した。次年度に繋がる改善、継続的に実行できるどうか課題である。
	授業改善	主体的・対話的で深い学びを意識した授業をどの教科でも行う機会を増やすために、公開授業時に、それを踏まえた研究授業を行う。	公開授業内で行えるよう働きかけを行った。また、参観を促して授業改善の取組みを促進した。さらに多くの職員が取り組めるかが課題。
	授業時間確保	学校の根幹は授業であることを認識する。授業時間確保のために、学校全体の教育活動を精選する。	授業時間数は例年並みに確保できた。ただし生徒の欠席が増えたことで、知識の定着には課題が残る。
生徒指導部	生徒の将来を考えた身だしなみ指導・マナー指導	昨年度までの指導を継続していく。生徒の内面からの規範意識を高めるために、教員と生徒が向き合える関係づくりのための機会や時間を確保する。	進路指導と関連付けした指導を継続し、自ら正すことのできる意識を育てる。また校則検討委員会を通じて校則の見直しを継続していく。
	いじめ未然防止の強化とSNSに対する指導の強化	面談とアンケートを適切な時期に実施する。SNSに対する正確な知識と危険性について指導を強化する。	アンケートや面談期間の適切な設定を行う。また学年及び分掌、S C、S S Wとの連携を図る。外部機関との連携を図る。
進路指導部	社会環境の変化に応じた進路指導を行う	進学試験に関わる情報を収集し、変化に応じた進路行事や環境整備を行う。	入試環境の変化について情報を素早く収集し、環境の整備を行い、進路意識の向上と学力伸長を促す。
		インターンシップ、就職指導の充実を図り、社会環境の変化に対応できる就職指導を行う。	早い段階から、生徒自身が自己理解と職業研究を深め、ミスマッチのない選択ができるよう指導する。
		求人情報や入学試験の提供方法を検討し、時期にあった情報提供を行う。	従来の行事を改善しながら、新しい手立てを検討し、適宜改善を加える。
保健厚生部	心身の健康維持と環境美化に対する意識の向上	教員が教育相談に対する専門性を高める。S CやS S Wの活用を充実させる。	教育相談委員会でS CやS S Wの助言を活用する。現職教育としてS S Wからの講演を行う。配布物、ポスター等を配布し、啓発活動を行う。
		健康で安全な学習環境を自ら作り上げる態度を養う。	校内環境の美化だけでなく、汚さないようにする意識を高めさせる。
特別活動部	主体性を持って生徒会活動や部活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意識を作る。	生徒会が主体的に取り組むことのできる学校行事にするため、支援や指導を行う。部活動のさらなる活性化のための支援や、ボランティア活動に積極的に取り組む意識が高まるような指導を行う。	各行事において、生徒会の主体性は前年度より向上し、自ら考え提案できる生徒が増えた。今後は活動自体への新たな提案ができるようになることが課題である。部活動においては、顧問の献身的な指導により日々の活動は活発化し、大会で勝ち進む部が増加した。ボランティア活動については平年並みであった。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	2023東浦高校グランドデザインに基づき、「生徒の成長を第一に考える学校づくり」を推進する。 1 学校全体の取り組みとしてとして、確かな学力・粘り強い生徒の育成を図る。 2 学習・進路・生徒指導の取り組みとして、組織的な指導方法・指導体制の工夫を行う。 3 公開授業を活用して、授業改善に努める。 4 地域連携として、保護者・地域・町内の中学校・小学校との連携を今以上に強化する。 5 学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめのない学校を実現する。 6 教員の働き方改革を進め、生徒に向き合える時間を確保していく。 7 愛知県立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則・方針に基づき、在校時間を客観的に把握し、時間外在校時間の上限(1か月45時間、1年360時間)が遵守できるよう業務改善・分担の見直し等を行う。		